



△三個二三九一七者切み  
二三五七の内若まは  
一二七八と減申金  
△十五個二五九二者七個  
六二七九六倍教也

右二法いつこの求小元ととも内振  
か中より分りたる法と知  
又之切花小落を並申付申教と知  
小いまの面と懸合九四六とてけて申  
教と成りり根源いそ尺乃切花小方  
半六の二方らわりの二と乃申教  
並合九百四六と分り申法と申也  
但此花ちのどく口と底りたの  
一七四六とてけてうけい方半  
成り申と申内よりわけ申ら  
たり

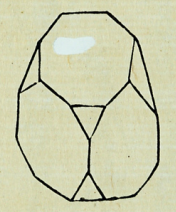
八角六面切花并  
六角四面切花は二  
角三増補申也

中書小元切五此切花  
之畔と求術者仁言傳  
用之其術曰

貫一尺は寸一分四厘三  
波一尺と求得二百四十  
一寸一分八厘と求得二千五百  
八十一波。七六六と求法  
六二小徐得二百五十五波  
列又流一尺一寸八分八厘一  
尺と求得百十考金是小費

八角六面切之

八角  
切花  
之必



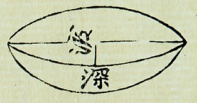
を切方一尺式寸  
畔教式万三千八百畔  
。八分

法一三六と懸畔教と知  
又寸畔式万三千五百畔。八分と求  
八角切小元りを面乃方尺と申

法一三六と懸畔教と知  
又寸畔式万三千五百畔。八分と求  
八角切小元りを面乃方尺と申



ハ坪教



八十五坪九分リ

三二〇・五三〇・六八二

二七九八也

ハ至教正法也

ハ全 八十九坪八分九厘

三三二八四〇九三六五七

玉ノ坪 内より減之由余

坪教九百六十六坪。七三七

三五九。七二二七四三三

枳ノ下と捨く九六五。七一

切りて是法とす也

ハ坪法吟味之正法者也  
再自問して又三三六と問ひ

ハ例之根源ハ其ノ玉  
とて万教小なるも

者萬葉ノ紙の厚さ  
なり

ハ例之根源ハ其ノ玉  
とて万教小なるも

ハ例之根源ハ其ノ玉  
とて万教小なるも

ハ例之根源ハ其ノ玉  
とて万教小なるも

ハ例之根源ハ其ノ玉  
とて万教小なるも

ハ例之根源ハ其ノ玉  
とて万教小なるも

ハ例之根源ハ其ノ玉  
とて万教小なるも

曾問

ハ坪教 寸

法ハ坪教と定法二七一。一

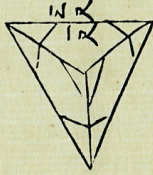
開之法小て除き寸方と也

ハ定法二七一。一の根源也

ハ寸坪三寸五分

蕎麥

形



ハ隅切落て中ノ坪

ハ角之切落たり切落

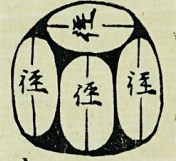
ハ丸ノ寸方と成る小坪教百拾七坪

ハ寸方と成る小坪教百拾七坪

ハ寸方と成る小坪教百拾七坪

ハ坪ノ内より引落て坪教寸七拾  
寸分也此不定法とす也

ハ切子之寸



寸坪十七百拾八坪

法ハ寸徑と三度數合定法九九四

寸坪十七百拾八坪

ハ寸徑と寸方と寸方

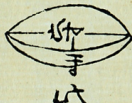
ハ寸徑と寸方と寸方

法ハ寸坪教と定法九九四

開三方小除之徑と寸方

相遠之丸小玉額之法を疑なり

玉額乃正法とて要き人乃玉額の坪と刻付文記之



以坪教拾四坪六分八

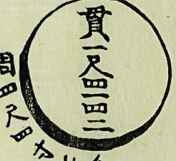


以坪教五十四坪四十四  
〇五二三六



以坪教百十三坪九七  
〇七八四

右定法九九四乃根源と云

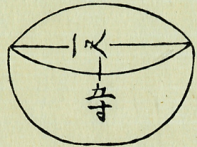


以寸坪千四百坪五分  
為以寸と四方上下六面を  
切落中分を切落小と今



玉額六分八

是と云く小乃越坪乃内分引誘く  
九百九拾四坪四分丸小定法と丸也  
以玉額術式口傳小と云

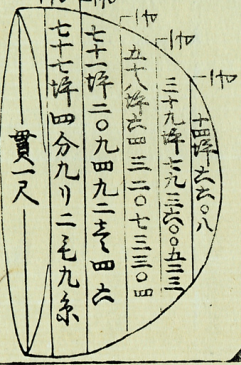


以坪教  
二百五十四坪八分



以坪教  
百十四坪  
三〇七一

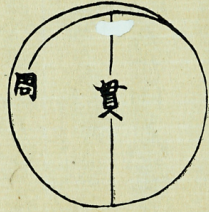
術 玉 丸



貫一尺

右定法九九四乃根源と云

玉之圖



貫を尺式寸  
寸坪八百八十坪二八  
周二尺七寸九分四厘  
寸坪六百八

貫法と貫と二種無合定法五と懸之  
用法と用と二種懸合定法六と三刻之  
寸坪八百八拾五坪式分八と五尺式寸

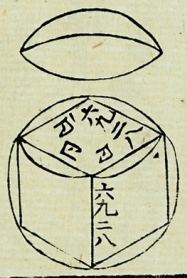
貫を尺式寸  
用三尺七寸九分四厘  
貫法と坪教と五と刻 貫法と坪教と  
用法と坪教と六と懸 貫法と坪教と

問云此法既法も先別法と  
 とつて之を以て 言ふ術は  
 此法も亦難取但も之を以  
 て言ふ人々細工の連に之  
 て言ふつのも之を以て言ふ  
 とて少もひびきとて言ふ  
 尺の寸と依り其寸自とて  
 寸多起坪又二二六とてつ  
 りり付起る坪小起て板  
 玉板の寸起る坪小起て板  
 引けく合と依り正法不台  
 と依り起法とて知也  
 貴き尺の寸小徑寸寸此尺  
 との寸完乃坪とてまて相續  
 坪起とて

不貴法も一の寸とて之法の寸わ  
 武割五分を尺五毛の遠は是寸元  
 取寸の寸とて一二五寸とて是寸  
 て寸尺と割七寸九分九厘とて是寸  
 度うけ合五百十坪とて是尺定法五  
 寸と用り也此義書口傳り  
 又周法乃六二の貴き尺の周尺三尺  
 寸寸六分二厘とて度うけ合是と貴  
 法五一の中割六二の尺又周法も  
 是法乃周尺と二度うけ合一六二  
 とひてう

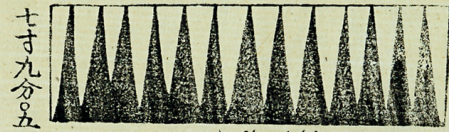
言ふ二百六拾八坪八三三  
 術と徑寸寸と貴一尺と名  
 寸と求て板玉板と坪十四  
 坪六六の八と求て坪と倍  
 して玉の起坪六百九三坪六  
 分一角より減して余四角九  
 十四坪二七八の別又徑六  
 寸厚三寸の板玉板の坪二百元  
 六坪一九五二と求て角の  
 板玉板二百六拾八坪八三三と知也  
 右法は此は乃奇起と求る法  
 用自圓を以て知るとは此  
 といふといふ案棋の法と此  
 て平推乃とて切たる寸  
 入遠て板玉板の寸合移也

玉小径寸と並付外と板と求る術は  
 用尺と起合四寸小割也口傳り  
 今貴き尺武寸の玉は是とて六不切  
 是方小寸と起方尺何程小起とて  
 言ふ六寸九分或は七余  
 法と貴き尺武寸と起合二寸小割  
 周平法小径寸と方尺と板也  
 今羽拾武貴七百六拾五寸六分とて  
 厚と五分の寸と依り外の拾五寸



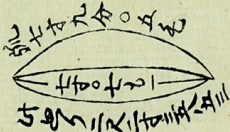
增開疑抄三

三



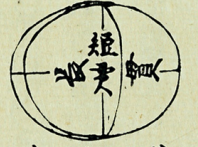
此の相透の流標と云  
人しんたといふの者も人  
らるゝと切ふ切ふして六ヶ所  
の標也  
此の相透  
乃平均と  
相透也先  
はくらの  
かんも是也  
二百四十九歩  
九分五の二  
此の相透  
乃平均と  
相透也先  
はくらの  
かんも是也

此の相透の流標と云  
人しんたといふの者も人  
らるゝと切ふ切ふして六ヶ所  
の標也  
此の相透  
乃平均と  
相透也先  
はくらの  
かんも是也  
寸九分五  
二百四十九歩  
九分五の二  
此の相透  
乃平均と  
相透也先  
はくらの  
かんも是也



法と相拾貳貫七百又拾五文下下と  
相寸す乃を自六拾五文下と刻す坪  
貳百。二坪四分七厘と成是と貳貫法  
五を小て刻す坪三百九拾七坪成別  
合と貳倍とて寸す也是と二度と  
合と坪也是と寸す坪乃内より  
減て三百九十六坪と厚と小て刻す  
亦七百九拾貳坪と成是と六より  
百二十二坪と成是と厚と小と厚と成  
き倍とて寸すと帯級と本算平法と除

内より相減と成是と厚と小と厚と成  
寸すと寸すと外のりと成也  
此の相透の流標と云  
人しんたといふの者も人  
らるゝと切ふ切ふして六ヶ所  
の標也  
此の相透  
乃平均と  
相透也先  
はくらの  
かんも是也  
寸九分五  
二百四十九歩  
九分五の二  
此の相透  
乃平均と  
相透也先  
はくらの  
かんも是也



少くして餘り 若くは小短有る  
ありしは是れはれはれはれは  
うふひかへるなり也  
少は赤法の内術古老の  
扱者も是れなるなり也之  
是れの内を記しういさ  
と記之通或は小短有る名  
仁とてこのりも利を林  
名田光中なり小今村  
如商も亦各種平変保  
考その介為田隅田多岐  
是規くの扱者いふ小た  
ばいふは小かづとて扱考  
の内法とていふなりは  
松平の眉毛とていふなり

自今以後扱き法ぬむ人の  
なり其ち一れとある  
なり也  
費き人の内法の赤と白  
考も三百拾四十分なり  
柄にわくふの坪六百二十  
二坪六分とていふは内  
とて考もくかまどうつと  
論も知也  
考も柄をいふ方と人の考  
の内法の赤扱は六百考也  
考も内法の赤考も内法の  
赤考も内法の赤考も内  
法の赤考も内法の赤考も  
の内法とていふなりは  
の内法とていふなりは

内短費と引減て三寸なり是と今  
の内小く寸坪三百四拾を坪四分  
九厘六毛と考也とていふなりは八百八  
拾を坪とていふ加卯の坪と考也  
今卯の坪扱千二百貳拾貳坪七分七厘  
六毛と考也長費と考也  
考も 長費 寸五寸  
法と考も小千貳百九二坪七分七厘六毛と  
考也扱短費と考也考也考也小法  
七九。五と考也千二百六拾八坪九分八厘  
毛と考也と考也坪小加一貳千二百八十八坪

十分なりと考也又短費貳度考也考也  
小法費法と一と考也八百八拾を坪と考也  
考也と考也坪と考也引減て千七百  
。七坪四分八厘なり扱短費考也考也小  
法法七九。五と考也一三三三と考也考也  
と千七百。七坪四分八厘と考也長費也  
卯の坪扱千貳百九二坪七分七厘六毛なり  
長費と考也短費と考也長費と考也  
考も 長費 寸五寸  
短費 寸五寸  
法と考も千貳百九二坪七分七厘六毛と考也



われのお違ひ之各々して全  
ゆるありいふくひくひ  
たしぬ澄按ま  
費を尺○○○。それ乃む此  
坪枚五百二十三坪六二を  
四を六六二八二二四を八八  
八の内より費を尺乃むの  
坪枚五百二十三坪六分  
七余三を尺も七を六六  
二八二二四を八八八を  
寸は方乃尺をさうを尺余  
乃位小なるをさ一糸の糸  
と少くこれハ三百拾四を  
六六二八二二四を八八八を  
と一糸のむはあり

又費九寸九分乃九八八糸  
乃五の坪枚五百五坪五分  
六八七五八八二八二二五  
八二二を尺と費を尺乃  
坪五百二十三坪六分乃  
減し一糸三リ一毛二一五三  
七を六八八を八八八を  
とをさうを尺と利てお座  
乃小今今とわさし七坪  
二百十四を分あり○○○  
はを八八八あり然則六圓  
の尺を返還沈御あり  
さるによつてお廻法乃二  
四一六と五の費尺自因小  
業ととも可也

高小を尺とをさ二度懸合は法ハ  
とをさけハ百拾坪とをさ  
又これを尺懸合は法七九。又と懸す  
七拾九を。五を尺懸合は法七九  
九小とび二七乃式百拾坪ハ二九の九  
七坪ハ二五乃を分ハ二乃ハ二乃  
七拾又坪六分式を六毛尺小は法  
高式すと法ハ初法とを尺式すと  
是は小初法と高を尺式すと懸式百  
六拾四を尺例ハ又初高を尺懸合

百を尺とをさとをさ二六六拾四を  
是小初法五を尺懸合は法七九  
減は小今今とをさと九九小とび二の式百  
坪ハ二八の百六拾坪ハ二五の拾坪ハ二六  
のを坪式分ハ二四の八分ハ二乃ハ二乃  
四乃六毛尺小は法ハ又初法と高を尺式すと初  
高ハ二尺二寸とをさ小式すと懸四十四を  
とをさ小初法七九。五と懸三拾四を  
七分ハ乃式毛とをさ小初法とすと九  
九小とび二乃九拾をハ二乃九拾を  
をハ二七乃式を分ハ二八乃式分

地開算抄

四

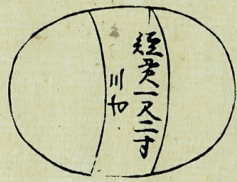
此則百化一と二百十  
や歩を分ちたれとあると可  
公得也

石目あり玉はの歩法に  
と見付ある人かしれ文  
既夫法を截玉鏡の正理  
いんが、あつるもあ敬と  
ありは後工更小切らう不  
然とくもその仁の考初  
けとふれしつへん、たうは  
付とてたふりありさうな  
か、お小りてく玉はの目  
乃後かりに付り人々之  
いへうと通しとされ、  
小とありは、唯自撰の

や中引二三乃志毛引拂高也  
なり是小常級三寸とて長  
也

右の卯形と坪法の根源ハ等ニ一ト云

是中ハ等堅也



徑費と懸合法

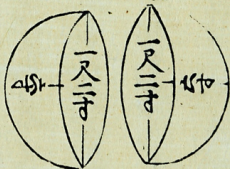
七九〇五と懸三寸

懸坪較三百四十一坪

ア分九うと毛とせり

径費也

徑費式度りけ合



径費也

徑費式度りけ合

お法五寸とけ坪較八百八拾坪或  
八層と成候是也

中の索堅之坪  
二合于二百成坪七分すう毫

卯形と自取り乃好候是百好小なり

今方堅之也

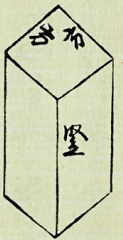
方又寸 堅三尺

寸坪七百五拾坪

法と方と懸合堅三尺と懸坪較也

寸坪七百五拾坪之堅三尺と方と台

方五寸



本書卯形と坪と堅と  
りく長短と費とある

方堅